

# 「自然科学系アーカイブズ研究会」 現況について

高岩 義信

高エネルギー加速器研究機構  
広報室・史料室

# 初期のあるいは従来の「自然科学系アーカイブズ研究会」

## ● ハブとしての総研大

- 総研大葉山高等研究センターの共同研究「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」
  - \* 研究会のプロシーディングズと報告 2004 - 2009（総研大リポジトリからアクセス可能）：  
[https://ir.soken.ac.jp/search?page=1&size=50&sort=-pyear&search\\_type=2&q=172](https://ir.soken.ac.jp/search?page=1&size=50&sort=-pyear&search_type=2&q=172)
- 共有資料検索データベース・ウェブページの運用
  - \* 総研大基盤連携資料情報共有化データベース（総研大、核融合研、高エネ研、*etc.*）：  
[https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G00000930UDAN](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G00000930UDAN)
  - \* InfoCom 社の Infolib (cloud) server

## ● 研究機関の史料室およびアーカイブ室等の活動として発展

- 主要なホスト機関：総研大の基盤研究機関である核融合研、高エネ研、および総研大
  - \* 研究機関の成立・研究分野の発展に関わる資料の収集・整理の知識が主たる目標
- 研究会をサポートし常時参加する（していた）機関：
  - \* 分子研、基生研、極地研、国立天文台など
  - \* その他、資料保有する施設またはアーカイブズ関係機関・関係者から随時、話題・情報の提供
- 「これまでの研究会」「関連するプロジェクト」などの情報は、  
KEK 史料室「自然科学系アーカイブズ研究会」のウェブ・ページ参照：  
<https://www2.kek.jp/archives/symposium/index.html>

# 近年の情況

## ● 参加機関・参加者とテーマの多様化

- 医学・生物学を含む様々な分野の歴史学・科学史研究と資料との関係にかかわる話題
- 資料の調査・探索・開拓（オーラルヒストリーを含む）の話題
- 様々な施設（プライベート・セクターを含む）の保存資料の話題とそれにかかわる研究者
- 国立科学博物館（資料調査プロジェクト）との共同開催

## ● COVID-19 のため対面での開催が許されない期間が続く

- Online (ZOOM) での開催で、参加者の多様性が増した可能性
  - \* その一方で、対面なら可能なインフォーマルな情報交換ができず、関心が薄くなった人もいるか？

## ● ホスト研究機関の体制の変化

- 担当者の高齢化などによる退陣・世代交代
  - \* 研究機関のミッションから外れるアーカイブズ関連の知識を持つ職員が供給されない。
- 研究機関の予算獲得状況と運営方針の変更の影響
  - \* 大型研究プロジェクトの省長の影響を受ける
  - \* 全般的に研究費が競争的になり、獲得した予算を目的外のインフラに振り分ける余裕がなくなる。
  - \* 経常的な機関の運営経費が、社会の経済状況（例えばエネルギーのコスト）の影響をうける。

# これからの方向性の模索：思いつくままに

---

- **ホスト機関：研究会等のイベントを主催する機関の問題**
  - 要件としての予算
    - \* 経常的に手当て出来るか、一時的な予算を要請出来るか
  - 新たなホスト機関参入の期待
    - \* 今まで見えていなかったか重点として認識していなかった課題があらわになる可能性。
- **関係者の情報共有・協力体制の充実・強化**
  - 研究会等開催の企画について相互のコンサルティング
    - \* 幹事団のメーリングリスト（既設）
  - フォーラム（？）
    - \* コミュニケーション・ツール
- **「アーカイブズ」の研究会としての課題の再確認**
  - 「多様化」に伴って希薄となったアーカイブズ施設活動の原点への回帰（？）
    - \* 研究機関内の組織としての足場の確保
    - \* 長期保存への対策
    - \* 例えば、データベース、デジタル資料取扱い、情報公開等のインフラの整備・拡充